

事務事業名		埋蔵文化財発掘調査事業		所属部	教育委員会	所属課	文化財課			
総合計画体系	政策名	(IV)ふるさとを学び育つまち《教育・文化》		所属G	文化財・文化振興G	課長名	板垣 旭			
	施策名	(32)地域文化の振興		担当者名	高橋 誠二	電話番号	0854-40-1104 (内線) 4750			
	目的: 対象	市民	意図	統文化・歴史遺産)を次世代に伝える。						
	基本事業名	(096)地域文化の保存継承		予算科目	会計	款	大事業	大事業名		
目的: 対象	市民	意図	地域文化を次世代に伝える。				中事業	中事業名		
				0	1	5	0	0	2	埋蔵文化財発掘調査事業
				2	5	4	0	0	1	埋蔵文化財発掘調査事業

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (16 年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保護法に基づき、開発予定地等の埋蔵文化財の有無確認及び発掘調査を実施し、埋蔵文化財の保護保存を図る。 調査の必要に応じて分布調査、確認調査(試掘調査)、発掘調査を行う。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	29年度実績(29年度に行った主な活動) ・前原・十日市線の発掘調査 ・上津屋遺跡の発掘調査。 ・(仮称)神原企業団地スマートIC及び市道新設工事予定地内の試掘調査 ・宮ノ廻遺跡試掘調査 ・埋蔵文化財分布調査	30年度計画(30年度に計画する主な活動) ・(仮称)神原企業団地スマートIC及び市道新設工事予定地内の発掘調査 ・池尻遺跡の報告書作成 ・前原・十日市線の報告書作成 ・上津屋遺跡の発掘調査報告書の作成 ・埋蔵文化財分布調査			
	② 活動指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
ア	発掘調査面積	m ²	130	1,000	600	400
イ	発掘調査報告書作成	冊	0	0	0	3
ウ	遺物実測点数	点	0	10	40	100
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	埋蔵文化財	③ 対象指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
			ア	発掘調査の実施件数	件	2	1	4	1
			イ	分布・確認調査の実施件数	件	15	18	27	30
			ウ						
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	開発予定地内における遺跡の性格を明らかにし、記録保存か、現状保存かを見極める。	④ 成果指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
			ア	発掘調査の実施件数	件	2	1	4	1
			イ	分布・確認調査の実施件数	件	15	18	27	30
			ウ						

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (29年度決算)	② コストの推移	単位	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(計画)
共済費: 11千円 賃金: 4,090千円 需用費: 485千円 役務費: 172千円 委託料: 4,999千円 使用料及び賃借料: 654千円	財源内訳	千円				
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円			2,471	1,850
	地方債	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円	7,584	8,312	7,940	7,787
	事業費計(A)	千円	7,584	8,312	10,411	9,637
	人件費	人	2	2	3	
	正規職員従事人数	時間	786	830	866	
	延べ業務時間	千円	3,076	3,293	3,531	
	人件費計(B)	千円	10,660	11,605	13,942	
	トータルコスト(A)+(B)	千円				

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
・開発に伴う発掘調査の依頼件数が増加しているが、それに対応できる体制が組めていないため、発掘調査を数年待ってもらった状況にある。	特になし	調査依頼者から、発掘調査を「早期に実施してほしい」という要望がある。

事務事業名	埋蔵文化財発掘調査事業	所属部	教育委員会	所属課	文化財課
-------	-------------	-----	-------	-----	------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？	見直し余地があるとする理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒	
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である * 余地がある場合⇒		
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒	
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はあるか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？	
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない	理由 発掘調査は兼務できないため、現状の体制のままでは成果を向上するのは困難である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	
	<input type="checkbox"/> 影響無 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有	理由 文化財保護法に違反する。
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？	
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒ (具体的な手段や類似事業名)	理由 本事業以外に類似事業は存在しない。
	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる	
<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない		
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 必要最低限の予算で実施している。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？	
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 必要最小限の人数で行っている。また、調査担当者は現場に常駐し、適宜、調査方法等について指示する必要があるため、業務時間も削減できない。	
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 ・国民共有の財産の保護・保存のためのものである。 ・試掘調査は市の予算、発掘調査費は、原則事業者負担であることから、費用負担に関する公平性は保たれている。
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果	② 1次評価結果の総括(根拠と理由)
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	例年に比べ調査件数は多かったが、「工事計画の変更に伴う発掘調査対象地の大幅縮小」や、「昭和期の開墾等により遺跡が消滅していた」といった、予期せぬことが起きたため、調査期間の短縮とコスト削減につながった。

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																		
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持	●	×	低下	×	×
		コスト																	
	削減	維持	増加																
成果	向上																		
	維持	●	×																
	低下	×	×																
<p>・発掘調査に関する研修に積極的に参加し、「調査費のコスト削減」や「調査期間の短縮」につながる方法を学ぶ。</p>	<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																		